

中野ルネサンス 杉山祐樹様

先日は、わざわざ事務所までお越しいただき、ありがとうございました。
下記アンケートの答えを送付いたします。

- 1 C (現金給付ではなく、家庭の財政力によって子育てや教育に差が出ないように、保育園や学校教育を含めた公的子育て力を充実・拡充すべきと考えます。なお、現行制度の下では国が全額負担すべきです。)
- 2 B (家庭ごみの有料化ではごみの減量はできませんし、税金の二重取りに当たります。家庭ごみの有料化は、処理やリサイクルを考えない生産者のツケを家庭に押しつけるものです。ごみの処理費用を生産者に負担させ、製品価格に含める拡大生産者責任を法制化することで、大量生産大量廃棄に歯止めをかけるべきと考えます。)
- 3 C (議員の人数を単純に削減すべきとは考えません。多様な民意を区政に反映するための代弁者数の妥当性については、十分な検討が必要と考えます。)
- 4 C (年4回発行しているむとう有子の区議会レポートの中で、報酬と政務調査費の収支報告を公開しています。活動すればするほど経費がかかりますので、「議員の仕事とは何か？」を議論し、明確化した上で妥当な金額をはじき出すべきと考えます。)
- 5 A (公金ですので1円からの領収書添付を義務付けるべきと考えます。)
- 6 A (景気低迷の中で、未来の子どもたちに借金を残さない身の丈にあった規模に見直すべきと考えます。)
- 7 2点 (本来税金で行うべき教育や福祉を切り捨て、ハコモノ行政を押し進めてきた田中区長は支持できません。さらに、計画を決定してから形だけの区民説明会をするだけで、計画段階からの区民意見の反映が全くなされてこなかったことも問題です。)

8 3期12年間、長いものに巻かれず、無所属を貫き、区民に寄り添い区民の小さな声を一つ一つ丁寧に区政に届けてまいりました。これからも「一人ひとりが大切にされる社会」をめざして、あきらめずに「環境・共育・命」の問題に区民の皆様と共に取り組んでいきたいと思っています。

9 A（私の環境問題への出発点は、25年前の1986年4月26日に起きたチェルノブイリ原発事故です。それ以来一貫して反原発運動に取り組んでいます。この度の福島原発事故は、科学技術を過信した人災と言えます。福島原発事故を契機に、原子力発電に頼らず、自然エネルギーによる暮らし方への転換を図るべきと考えます。）

以上です。何かご不明な点がありましたら、ご連絡を下さい。よろしく願います。

2011年4月10日

中野区議会議員（無所属）むとう有子

中野区上高田2-40-11-101 TEL/FAX5380-4192